

第3回 舞鶴市西市民プラザの運営方針に関する意見交換会 実施報告
(西市民プラザの未来を話し合う井戸端会議)

1 開催日時 : 令和7年1月20日(月) 午後6時30分から午後8時45分まで

2 開催場所 : 西市民プラザ 集会室

3 参加者 : 21名(うちコアメンバー9名)

4 事例紹介登壇者 : 3名

5 傍聴者 : 4名

6 内 容

(1) テーマ : 学びと発散「他地域に学ぼう。活動のアイデアを話そう。」

(2) 内 容 :

- ・ 他地域の実践に学ぼう

① 事例紹介

【登壇者】

- ・ NPO 法人 丹波ひとまち支援機構 代表理事 戸田 幸典氏
- ・ みんなぐる 代表 堀井 悠次氏
- ・ 京都府中丹パートナーシップセンター 協働コーディネーター 森 志乃ぶ氏
- ・ 活動のアイデアを話そう（グループワーク）
 - ① 活動のアイデアを膨らまそう
 - 西市民プラザを活用して行いたいこと
 - 市民活動推進するための必要なサービス
 - ② 市民活動を一步前に進めるために大切なことを考えよう
- ・ ふりかえり～今日の気づきの共有～

7 ファシリテーター : 谷口 知弘氏(福知山公立大学 地域経営学部 教授)

この会議は、多世代が集まって意見を交換するだけでなく、西市民プラザがどのような目的で建てられたのか、市民活動の場の意味や価値などを他地域の先進事例等を参考に学び、その学びから得た気づきを共有しながら西市民プラザの今後の運営方針について参加者同士で話し合うことを目的としています。

第3回は、他地域で市民活動を支援されている戸田氏と堀井氏に先進的な取組を、中丹地域の団体等を支援されている森氏に相談事例等についてお話しいただいた後、さらに詳しくお話を聞くため井戸端談義を行いました。

その後、第2回で学んだ舞鶴市内の活動や今回の他地域の先進事例等を参考に、活動のアイデアや市民活動を進めるために大切なことについてグループで話し合いました。

次回は、今回グループで話し合ったことを参考に、西市民プラザの役割や事業についてより具体的に考えます。

【会議の様子】

▼ 他地域の事例紹介

① NPO 法人 丹波ひとまち支援機構 戸田氏

丹波市市民プラザのコンセプトは

『みんなでつくる・育てる「ごちゃ混ぜ」』

地域の中で人を育てること、社会教育・生涯学習をできる場が大切。



② みんぐる 堀井氏



西脇市にあるまちなか交流広場「みんぐる」は子どもから若者、高齢者も「こんな場所があったらいいな」を目指している。まちづくりができることは地方で暮らす楽しみだ。

③ 中丹パートナーシップセンター 森氏

地域のだれかと話してみたら

何か良いアイデアが生まれるかも。

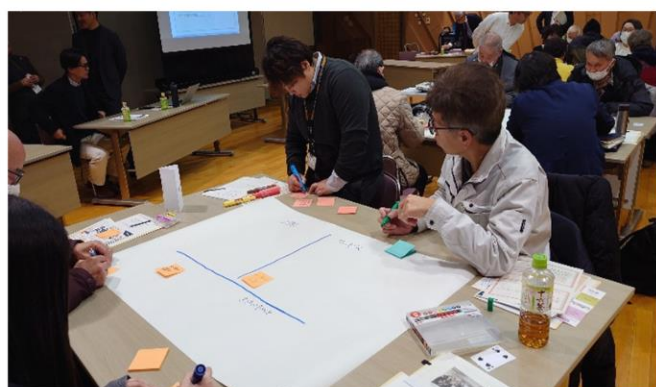
中丹パートナーシップセンターを上手に使い倒してほしい。



▼ 井戸端談義



▼ グループワーク



参加者の感想

- ・ 西脇市の事例「みんぐる」は、市が関わっている施設としては異色で新しい気づきになった。(あえて管理しないのもあり。)
- ・ 西脇市でやっていることを西舞鶴でもやってほしい。
- ・ 丹波ひとまち支援機構の戸田さんの話をもっと聞きたかった。
- ・ パートナーシップセンターのように複数の団体をつなぐ機関は非常に有用と思った。
- ・ 同じような活動をしている方と会えると勇気がもらえる。
- ・ 皆さんの活動は郷土愛を育てられるように日々活動されていることがよく分かった。ネットワークの構築ができるよう色んな方の知恵を借りて前進したいと思った。
- ・ 話し合いのまとめが「舞鶴愛」でまとまった。
- ・ 「気軽にふらっとハードルは低く」の感覚はみんな一緒だと感じた。
- ・ 「中間支援組織」の重要性に改めて気づかされた。
- ・ 交流の場をつくってほしい。有効な活動の場を求めている。それを声に出し、話し、意見を聴くということの大切さを感じた。
- ・ 初めての人と一緒だったが、楽しく話せた。耳が悪く聞きづらい点もあったが、グループの人が助けてくれた。